

## 高千穂夜神楽：夜神楽三十三番、夜神楽鑑賞心得

高千穂夜神楽は、古事記・日本書紀に記載があるように、天岩戸神話に起源を持つ神道の儀式的な舞劇です。この舞劇の歴史は800年前に遡り、高千穂神社の守護神に捧げられたものです。1978年に重要無形民俗文化財に登録された高千穂には、20の地元の村があり、選ばれた家で11月中旬から2月初旬にかけて一晩公演が行われます。

高千穂夜神楽は（願いを叶える「彦舞（ひこまい）」から雲をおろしてくる「雲下し」までの）33の舞からなり、天の洞窟という意味の「天岩戸」神話に出てくる神々が登場します。太陽の神である天照大神が弟のひどい悪戯に怒り、洞窟に隠れてしまい、世の中は暗くなってしまいました。八百万の神々はどうするか相談を交わし、天鈿女が皆を喜ばせるような魅力的な舞を見せると、騒ぎが気になった天照大神は少し顔を覗かせました。そこを力持ちな天手力雄神が洞窟を塞いでいた岩をのけ、天照大神を引き出し、世界に光が戻りました。33ある舞のうち、4つは高千穂神社の神楽殿で年中行われています。天照大神の隠れ場所を探す、天手力雄神の舞。天鈿女の面白い舞。天手力雄神が顔を真っ赤にして洞窟を塞ぐ岩を壊す、戸取りの舞。日本の生みの親であるイザナミとイザナギ御神体の舞。イザナミ・イザナギは日本酒を飲みながら、豊作・結婚・健康な子供をもたらす聖餐として米を用意し、最後は酔い観客の方にふらつき、抱擁することで神の加護をもたらす、という神々と人間との素晴らしい交流があるのです。